

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店〔酒類〕 （経営者） 乗用車販売店（営業担 当） 観光型旅館（経営者） 通信会社（企画） 設計事務所（所長）	・9月の連休、秋の行楽シーズン等で市外からの観光客が飲食店を利用する機会が増える。 ・7月の来店客数、受注状況から見て2～3か月は回復傾向が続く。しかし、商品により差があるため、軽自動車全体では微増どまりになる可能性がある。 ・9月、10月の予約はかなり増えており、落ち込む以前の状態まで戻ってきている。 ・野球放送が地上波ではなくBS、CSで放送されるようになってきており、ケーブルテレビの契約増加につながる。 ・経済対策の効果が民間にも少しずつ出始めている。建築への投資が少しずつ出てきている。
	変わらない	商店街（代表者） 百貨店（営業担当）	・競争相手及び客の様子から、活気は感じられない。 ・高額商品が若干動き始めたが、これから先、一気に回復するとは思えない。全般的に価格が安定しつつあるが、まだまだ予断を許さない。
		スーパー（店長）	・売上が給料日に上昇し、翌日にはまた消費者の財布のひもがきつくなるというように、今までに比べ、売れる期間が短くなっている。前年と比べ、売ること自体が難しくなっている。
		スーパー（店長）	・景気が回復する要素は見当たらない。総選挙の結果や、その後の状況によっては、また悪くなる可能性もある。
		スーパー（企画担当）	・雇用問題・経済問題のほか、梅雨明けの遅さ、8月の冷夏、新型インフルエンザの影響など、好転の要素は少ない。
		スーパー（財務担当） コンビニ（総務）	・まだ生活防衛意識が緩和されるような状況でない。 ・外的要因（環境）が良くなっても、すぐの消費喚起にはならない。身近な経済状況（自身の会社の業績や収入）が好転する兆しが見えないと消費が活発化しない。
		衣料品専門店（経営者） 衣料品専門店（経営者）	・毎年、8月の中旬までがピークで、それ以降はこのままなかなか気温も上昇していかなかつたら厳しい状況が続く。 ・単品買いの客が増えてきており、最近特に顕著である。客単価が下がり続けており、売上低迷の底がまだ見えてこない。
		家電量販店（営業担当）	・テレビ以外の商品は、前年を下回る状態が続いている。客はテレビの買換えを済ませてから他の商品に目が向くようである。
		乗用車販売店（従業員）	・総選挙後の行政の動きが不確定であり、景気が上向き要素はない。自動車業界にとって吉と出るか凶と出るか分からない。
		乗用車販売店（従業員）	・総選挙の結果を待って、税制改正でガソリン価格がどう変化するか、また、高速道路が無料化するのかどうか、などが決まってから、購入車両の決定をしたいと考えている客もいる。
		乗用車販売店（従業員） 乗用車販売店（役員）	・環境対応車への優遇税制が終わった時点で販売台数は落ちると予想され、これ以上の伸びはなかなか期待できない。 ・現在の販売量は非常に安定はしてきているが、今後は落ちてくることが予想される。
		一般レストラン（経営者） 旅行代理店（支店長）	・少しは良くなっているが、この先どうなるかの判断は難しい。 ・企業の出張需要は回復していない。しかし、海外旅行需要に関しては、9月の5連休効果や10月以降の燃油サーチャージの上昇が懸念されることで、前倒しの需要に若干期待できる。
		タクシー運転手	・景気が良くならないから利用客も増えず、むしろ減少気味である。
		タクシー運転手	・通常、8月、9月は夏休みで、帰省等で客数が増えるが、今年は高速道路料金引下げでマイカーの利用が増えることや、不景気で使えるお金が少ないという客の声があり、タクシー利用度は少ない。
		タクシー運転手	・例年秋に巡礼客が入るが、春に新型インフルエンザの影響でキャンセルが相次いだので同様の事が起こらないか心配している。
		通信会社（支店長）	・エコポイント制度、エコカー減税、補助金制度などは一部のにぎわいに過ぎない。

		通信会社（管理担当）	・景気回復は、新規需要が活性化しないと大きな期待はできない。	
		ゴルフ場（従業員）	・2～3か月先はハイ・シーズンであるが、全体的に判断すれば、今のところは変わりがない。	
		競艇場（職員）	・当競艇場ではSGレースが開催され、場内売上増加が見込まれるが、その効果が全レースに波及するとは思えない。せいぜい横ばいどまりである。また、夏休みのナイター効果も以前ほどは期待できそうにない。	
やや悪くなる		商店街（代表者）	・定額給付金、高速道路料金引下げの効果は一巡したように思う。販売単価がかなり落ちてきた。来客数も夏物バーゲンのときにはかなりあったが、それが長続きしない。また、客の財布のひもが一段と固くなっている。	
		百貨店（営業担当）	・来客数は若干の改善が見られるが、客単価の低下傾向は続いている。お中元商戦は送り先数の減少により、受注単価の低下は見られない。クリアランスも当用買いしか見られない。	
		百貨店（売場担当）	・賞与をはじめ所得は低下しており、消費は伸びない。	
		スーパー（店長）	・お中元の売行きをみると低価格志向が顕著である。これまで好調であった食品の売上も減少に転じており、以降の商戦も厳しい。	
		一般レストラン（経営者）	・民間のボーナス支給の目減り報道などで買物自体を自粛している。高速道路料金引下げはあるが、夏場に向けてレジャー等の支出が増えるため、小売での購買増加は望めない。	
		都市型ホテル（経営者）	・宿泊の予約状況が芳しくない。	
		設計事務所（職員）	・業界全般に採算性が極端に低下してきており、企業体力勝負の様相が一段と見えてきた。	
悪くなる		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・当社の取引先である飲食店は景気回復の恩恵を受けるのが最も遅い業態である。	
		スーパー（店長）	・各量販店、大手の企業は、低価格戦略を行っており、デフレ傾向になっている。	
		住関連専門店（経営者）	・販売量が良くならない。販売量の前年比が毎月悪化している。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-	
	やや良くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・秋の需要期には、今の受注状態よりは幾分良くなっている。	
		鉄鋼業（総務・人事統括）	・一部取引先においては資金繰りが厳しく、取引限度等を考える必要があり、信用リスクの高い状態が続いているが、主力製品の販売先である自動車産業や鉄鋼業界からの受注は改善傾向である。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・LED関係、電池関係等の見積、提案が採用されるようになったため、2～3か月先は少し景気が良くなる。	
		輸送業（社員）	・昨年下期の受注数量から比べると増加傾向となっており、取引企業の出荷オーダーが70%程度までは回復基調で推移してきている。	
		通信業（営業担当）	・夏休みに入った事もあり、高速道路料金引下げを利用して家族旅行を計画中との声を聞く機会が増えた。	
		不動産業（経営者）	・不動産業界は、春までの塩漬けの状況から、やや、一部の事業用案件や個人案件で回復している状況が見える。しかし、先行きは見えない。今回の景気対策やローン減税等についても、個々のレベルではまだまだ慎重な対応をしている。	
		広告代理店（経営者）	・それなりの量の仕事が動く気配がある。また、大手出版社などが既存製品の再編を行っており、それに伴って良い意味での受注増減がある。	
	変わらない		木材木製品製造業（経営者）	・12月までは前年比20%減くらいの落ち込みで推移すると思う。個人所得が上昇しないかぎり着工数は上昇しない。
			一般機械器具製造業（経理担当）	・ユーザーは先行きに対する不安感を相変わらず持っており、様子見の状況が依然として続く。公共工事関連の前倒し施策による発注量の積み増しなど何かのきっかけがあればマインドも好転する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・需要に回復がみられない。	
		建設業（経営者）	・毎月のように同業者の廃業や倒産が続いている。	
	建設業（総務担当）	・マンションの老朽化に伴い、大規模修繕の見積依頼が増えてきているが、管理組合の予算が厳しく、収益面では採算ラインに乗りにくい。		

		通信業（部長）	・売上の増大策に有効な手段を見出せない企業が多い。現状コストをいかに最小限に抑えるかに注力しており、消費性向も弱く販売増大による景気の活性化は期待薄である。
		広告代理店（経営者）	・自動車販売等多くの得意先は、消費低迷で広告費を削減しており、回復の兆しが見えない。
	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・明るい見通し材料が見当たらない。
		金融業（融資担当）	・景気が良くなる理由が見当たらない。
		公認会計士	・異業種交流会での経営者との話しの中で、設備投資に消極的、将来の資金繰りが不安、今回の賞与の支給が前年比3割以上減少している、などの話を聞く。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人ニーズは低調のまま推移すると見込まれる。しかし、既存社員のレベルアップに対してのニーズは高く、新しい研修企画を始めたところ、好調である。
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ほとんどの業種でよくなる要因が見当たらない。ただ、高速道路料金引下げの効果で観光面は少しでも望みが持てそうである。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・前年同時期よりも悪化している。
		職業安定所（職員）	・知名度のある企業が突然破産するなど、予断を許さない状況にある。夏のボーナスが大幅にカットされたり、消費の冷え込みにより回復の兆しが見られない。秋口以降、不況型倒産が多発する恐れもある。
	職業安定所（職員）	・今後更に中心的な企業の雇用調整が見込まれ、周辺企業への影響も大きいことから、さらに景気は悪化する。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・企業などから送られてくる求人件数（求人数）が、あまり伸びず、前年の同時期と比べやや悪い。ちなみに、昨年今年で、求人件数は5月59 52、6月48 40、7月41 29、求人数は5月410 302、6月291 192、7月224 150である。	
	悪くなる	-	-